

蓬州舊勝錄 十五

夔州縣
史編纂
係之印

共拾九冊

第四門

備付	品目	調製	費
場	年月日	昭和	第三
文		年	號
書		月	
課		日	

294
ス
1-15



蒼州舊集錄

海部郡

共十九冊

十五

第一千九百七拾四號



A294
又
1-15

○津沼

(村高八子四百七拾八石五分九合 新田之石七百六十石五分九合)

家敷子四百八十七石余

津沼と云ふ意給ふと云へ元吾邑に袋場下操今市場

境下米産是也 ○亦津沼九町と云ハ所謂 斤町

指法 境下上切米産 坂口 高町屋七市場 厨子町

是也九町と云

友浪里 有根沼 吉津沼 津沼 今 白沼と云

門真私説云は津沼海産茶の地名と友浪の里と津次亦云ある津
西津の對馬に地に連る路に後下の名を改て津沼後と云ふハ
舊地實文大故實也

名考

伊勢人のひがと志多津沼から川ゆけが泉地の原

長崎

史考

その日よりそと私人の津沼の後り尾もその河

中巻親王

一

有根は津沼の後りたれ中てぬきとらむけてお伊の原

後人の志

津沼より持きし来きハ長江成甲斐川とて泉の原あり

津沼より持きし来きハ長江成甲斐川とて泉の原あり

津沼系礼云蓋津の高き村より伴勢乃陸麻那甲斐向
泉地を流し流し長生村系名四百市の間長生是馬津の流
け長生迄の流を津沼の流りと云り伴勢の泉地甲斐向也

津沼流り (貝原氏の和名雅も本古奇にも右のくく凡は流
何處とも云り不詳とて大いぬを記すにや

求沼 和名雅と出れ只津沼と云り何處とも不詳

津沼川 け川下流と云相江至五里今佐屋勢別業名至而三里也

天王橋 梁行六拾八間幅五丈九尺六月系礼御堂は是流成徳日川
をくく流地をけ橋と云

是別化後系客人新橋每村質系詣の流其人に三流宛り
経管仍而の謂初進橋 け橋宮屋十辰年四月水部の如ひ
るく云人乃流を築切りけ後お朱橋に取致り是御園より水
伴の厨執也 亦于後如古橋か朱橋たあ岸の境を築也

中流に橋を築て堤昔小橋なり

古城壘

奴也橋ト
本池に在

津沼雅妻といふ口の間の卯の字に在

是を布股の城と云里長ぬのヤと云は古大橋三河守定者の
正安元年始向築きて常の城を頼頼々大橋の是祀肥後の
入及欠能に陸進比伴として尾張もあ都那門真衣を永代
下と流すけ流に是利家天下と云りゆふ付も大橋は安法教組御の
下と文の通り定省の時良王都とは流に流すや何の字細
るよりしを橋に流後昔平貞能文治の比津沼に流次と云
たり大橋和泉守信玄分代と云ふ十二と云は指来れ信長此時
津沼の屋形と云今にも多道道の農不を矢倉下と云大橋家の
流欠能の妻唐ふい妻浪合能もつたり 是亦古倉浦高
名の荒増たの通り

川村及閑屋敷

この御殿屋敷 閑田帯刀子高たらしき御殿
の屋敷閑田表は閑田の如くは百餘りなり

坂田掃部目

この津道古屋敷 子高たらしき御殿
掃部目は掃部目

藏田信濃守屋敷

その遺墓等

大方長三信日

その百姓に於て惣別荘の故に是也

平野大炊日

（その百姓に於て惣別荘の故に是也）
大和守の故に是也

平野小法平日

好に平野云々の別荘に是也

平野友房日

その百姓に於て是也

大橋友房日

その百姓に於て是也

堀田恒監日

堀田上野友房の故に是也

堀田新太日

その百姓に於て是也

堀田持河日

其子長友の故に是也

石垣孫又日

其子長友の故に是也

河村字来日

其子長友の故に是也

津井三島日

その百姓に於て是也

堀田辰悦日

其子長友の故に是也

石川翁日

其子長友の故に是也

堀田辰悦日

其子長友の故に是也

堀田半七日

其子長友の故に是也

奥平友房日

其子長友の故に是也

河村久之日

其子長友の故に是也

平野信吉日

其子長友の故に是也

堤津島村 待至浦 舊院 今或捨去之 不有

○古産

赤園子

麩

園

川

糸

龍

糸

小口（若古屋及上衛屋下云） ○西家 ○王のせこ ○地方 ○茶の本町社 ○高屋敷
 ○上切町 ○上河原 ○金焼籠町 ○境下町 ○橋詰町 ○坂上町
 ○斤町社 ○寺の産 ○布屋 ○たぐも ○熱産町 ○池のほとり
 ○三町屋 ○後場 ○街堂のせこ ○辻町 ○と辛場町 （口の中切）
 ○小浜 （雑書下） ○外をばま ○厨子町 ○中橋町 ○松平 ○小厨子
 ○下橋入 ○下衛屋

○津沼堀田敷物屋をよる島乃上月 才一法示
 「よ日本御家志了」 （昌休）
 津沼の社 （昌休）
 津沼の本の間をみる御階下那 （連斎傳）
（昌休） 宗牧

○津沼八系と堤古稱通次不僧

長橋秋月 江口夕照 荒鷲晴嵐
 子尾落居 長堤善雪 佐屋帰帆 宮樓眺隆
（け内を額して）
（真信）

天明己巳年
 津沼御多事之梅垣 （堤古） 有く申候の也
 々々々々々々々々

正一位津嶋牛取天王 東陸本

門間在友辰里

国府宮為國朝處於那，身一載之是本草蓋以津嶋社為而
寫耶 神名或云多祿威神院牛取天王等者，當時不預
祈年，祭故乎。然列式內社社上者未見者津嶋，祠官
以奉祀之神，私載開卷初者，今改而書或外方二
卜國內神名集帳（尺下）

舊記云之社御神 牛取天王 頗利采女 毒毒鬼神

一本尾張西海郡津嶋社所祭同系祇園之社御神ハ

素盞直鳥中 稻田姫 八王子 西
八王子ハ 左殿神 大於神 右殿神 苗幡神 約尾神
歲被神 早殿神

張別名勝徳云 崇祀神二座 進雄尊 内末社十部及外末社一 神主 從五位下 氷室氏

風土記曰津嶋大神社正位祭神之座十神

素盞直鳥 稻田姫命 八王子 弥五命 社是也 神本正位

或云津嶋牛取天王社 神本正位 社以者流傳習之曰

人皇二十帝 神武天皇元年 已未崇祭之天王初降
西海對馬洲 後移尾張海郡 仍而表其舊地名津嶋
嵯峨天皇御宇 其祠 更云移建祠於今地 祠官稱

日本總社牛取天王社

人書云 仇牛取天王為婆引多迫國主或為都波弄

或為法界自在國王者 依經不同 蓋蓋內傳為廣在
王 尾列津嶋古經記為豐統天皇亦蓋依釋氏
元年乃梵語之譯曰妙音乃天部之八王子云云 西祝

為素盞直鳥尊之五男之女神 惟陽家祀八王子 秘藏人
慈願本傳八部 稱是 業所依 而參之八菩薩 法花
滅法八王子鬼王云云 津嶋經云八王子是八菩薩也

斗頭天王辨ニ云 梅謂精之精舍則當時專ラ不為
社乎夫斗頭天王者西域所祭之神ヲ藥師如來之教
令轉牙有衆病衆深功德故我國昔日傳其佛法ニ并
之遂宣流諸別立ニ崇之ニ後之皆厚圖家ニ多法ニ
其祀素蓋焉者蓋ニ備後風土祀ニ依ニ

押尾陽海於那門真在押尾の神社斗頭天王ニを
次明天皇の御宇於那郡中宿に光りを現ル是と云れ
押行に白帶ヲ有り神託に依り素蓋焉ニはハ心ニ而
日の本乃蓋漢守トぬレト仍て社を建案案始て押行に
現ルて法坐志路ニあり押行ニをテ守ルとハ号スとハ云フ也
村上天皇の天曆二年ニ成申テ勅使ヲ送リ社を建案ス也
（蓋漢守中宿郡王村の古神神社押尾郡大宿の神社
在りしとの傳傳に依りて村上天皇と云ふ事也）
後村上院建徳元年正月大内正一位を授日本乃

惠社ト云ス 斗頭天王の社ト云フ 梅乃院弘和元年の
勅命を以て大橋ニ守リ定省改行造管ニ此今の土地也

津沼神託云 真時綱撰

梅末の社も變く皆比神の子校跡葉の靈ヲを崇ヒひテは
御法座の如く人皇平代神代天皇の元ニは比宿に本條の地
張ハば御末の由ニに比宿ニ是ハ一ノ社ニ秘ス也ニはハ社ニの
傳末ニ又郡の祀ス人皇也ニ社ニ秘ス十箇ニにハありテ平
御正神の品比ニの神ノ御宿の故実を始ニ立符押の札
波ニ是ハ述ス也ニ殊ニに御宿ニはハ表ニ表ノ神ニ秘ス也
てハ社ニの最上日本ニをテ雙ニの神ニ也ニ斗ニ也ニ之ノ社ニ
りテはハ謂フ也ニ飛ニ斗ニをテ飛ニ也ニ斗ニ也ニ斗ニ也ニ
深ニ謂フ也ニ斗ニ也ニ斗ニ也ニ斗ニ也ニ斗ニ也ニ
て外初ニをテ斗ニ也ニ斗ニ也ニ斗ニ也ニ斗ニ也ニ
斗場ニ二子ニとハ云フ也ニ斗ニ也ニ斗ニ也ニ斗ニ也ニ

かひ希聖次と云ふてその丹敷素盞爲ると云ふ天照を神
乃神事にして神皇荒振神に坐し青山を指しと云ふ
を天押^{アサヒ}にらし給ひし神事なまきど好ましかの神の御代
志の大地を刺ぬひし御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
好いし御子の神事なまきど御心を柱し松心も青山と云ふ天押
ありし民にも聖意の有りし神代に造しと連す天地の運
業荒振神ひひけ神のつらなる事なまき神の首彼神画
りて志をく致遠にありひのひ故に隨ひをめて御代
致として荒振神意を御し御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
なれし表理一神の神故に御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
夜流の御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
の御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ

浪合記云 押良王君の別他^{ツクリテ}の正行寺の降臨の大橋
定者がぬ神の城へ入ぬ永言七等十二のた九の四家
七名等や依元関白也村や降又ホす五人所依の時辰

米政り御二合村も米又給ふを致次は米を十五人の者に領
給^{ツクリテ}三月二日小飯頼ちりしに日金村も米十五石を致次
是を給ふかゆ人に揚小吏^{ツクリテ}十五家毎家正月二日必米
を給ふは是の給^{ツクリテ}降臨の御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
神の御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ七名等の者た神王を奏次は
吉例末代正月二日と云ふ正月元日に新奏と云ふ
御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
尾張大根の輪切給ふ小橋の千た馬も大根の刺を入しを
けりか流号をらしと云ふ吉也の流ひ依をせし武
士大橋依理を定元是も本在御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
寺祓祓^{ツクリテ}恒川た系を又信雄の是を利由家の御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
曰吉好も依をの云の御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ
之水正業^{ツクリテ}後戸伊賀も字純給ふ右系高元守政と興也
或ア少補及資光興大根高元守政と興也
け七人を七名等の御心清くし海も興^{アサヒ}言ふ

の武士ともやせき何き後二人あつて尹良親王を守護せし
同書に 津信奈之法武船十艘を飾り十孝の志を以て
紋の幕を掲げけり故に曰ふ依屋村の旗を基屋大
陽守と云別の武士あり良王君に鎌形旗を基屋と討計
第に天王所託ありと據る大陽守一旗を信し船を飾り
津信に押来ん十孝の志を以て大橋が舟推後れを以て大陽守
の會村に推かすお急を定めて大橋が舟推後れを以て大陽守
け討を不意一旗を以て乘せ急を以て物取お急よきと
大橋が舟推後れ津信に乘後れを以て十艘の舟も推後れ
の基屋が船を以て取巻て同の舟を揚げて大陽守が舟を
討志のむと云別の旗を以て水に溺る者死に依屋村の旗を以て
白地村の旗を以て水に溺る者死に依屋村の旗を以て
事をもお大矢部と云別旗の志を以て一旗の舟を以て
良王月通と云別旗の志を以て一旗の舟を以て

おがてな夜やりに後大矢部が命を助り孝を以て天王
お殿の番もが如くは後世にだん屍村と云ふ事ありと
良王乃今に回して舟に載り孝を以て大橋と討志の
十孝の志を以て十孝の志を以て一旗の舟を以て
て不棄或は他を以て乗せ急を以て物取お急よきと
先して舟を以て乗せ急を以て物取お急よきと
乃家を飾りて天王の境目に居る依屋村の旗を以て
中のある守後七名を以て社名に依屋村の旗を以て
眞の御置文に依りて編抄以下の志を以て依屋
貞字津信村の白地村の旗を以て依屋村の旗を以て
事請の武士改めの役と云ふ事ありと
或記に云依屋の旗を以て大橋と云ふ事ありと
と云ふ旗を以て依屋村の旗を以て依屋村の旗を以て
紀之卷の尾別春日部にて依りて依屋村の旗を以て
ありて依屋村の旗を以て依屋村の旗を以て

續一安富なる厨とらひ一人ことと云

くもあふにふら見を末葉に何れかあふ
忌服の御衣のまは他家の児に名字をよけて役を勤せし
む一夜まも苗字をよむされは名ぬたふ場田を自原と系
御屋舎七本の降の内児そ人宛鞆靴を歩返田中
河さされは又化姓の人の子を一夜成た場田氏の女子
まをけ役を勤ルと一説云と云宗皇帝此末孫
我般に後り紀氏の家を續きぬの志留し本仇の如きお
るりとまをけ本仇になし居候と本仇を交致と次
の行用説之

祇園縁起畧記云

鳥の一名ヲ武塔天神ト云ス目本ニ海ヲタレ玉ヲ由來ハ佳日
北天竺王舍城大王ヲ高貴大王ト云ス帝親天王ニ仕ヘ物理天



通ヒ八宿九曜七曜ノアラユル星ノ奉行ト成テモ時若ラ天刑星
ト名付ク斯テ亦天竺ニ歸リテ政ヲ治メ玉テ形ニ牛頭ヲ裁
テ宝冠トナシテ角トガリテ天ニサス身ノ尺ケ大ニサレ牛頭
天王ト云ス未だマミサザリケル時ニヒスイノ如クテツバサ青キ
鳥をり色山鳩如ク似テ瑠璃色ト名付ク天王ノ首ニ赤キ
我ハ帝天ノ使者ニ天王ノ所居ヲ告ヨトトノ後ニ赤キ
龍王ノ都南方あり内ニアリケ龍王ニ二人ノ女あり一ハ金昆羅女
東は毗摩羅龍王ノ妻ニ二ハ娑命女也北は龍王ノ所居ニ
ニラ頗利奈女ト名付ク形教ヒナシ終ニ夫ナシ天ニ行テ所トシ
トテ皇座ニ上リ又天王車ニノリ八万里南は赤キ玉ノ所居ニ
行テ人馬龍タリ家ニ南天竺ノ所居ニ夜叉ト云フ龍王ノ
巨丹王ト云フソシキ鬼神王ヲ臣モ亦亦クマ園象教トシ
天王宿ヲカリ玉ハ凡巨丹カサス天王カチクハ
原ニ皇玉ト云フ二人ノ女もココサラエヲ持カクニ行
ヲ拾フ天王女ニ宿ヲカリ玉ヲ女養ラ我ハ巨丹ノ仕ワレ者ニ
ツバサ青キ鳥生れ地原をり荒れタル所アリ主ヲ蘇民
マツシケレ尾慈照澤ノ宿カリ玉ハト云天王カチクニ至リ玉

テ庭ノ草ヲ刈テ有り客ヲカリ玉ヘト云ク曰ク我ウニテ受テモナシ備ヘ
ノ物モナシイカテカ天王ヲ留メ奉ラントトヤス天王ハ日暮シテ浴を
人馬皆シヌヒラニ一夜ヲ明シ侍ラントト云ク我ウニテ受テモナシ
雲ヲカシキテ櫻ノ葉ニモトリ天王ニ奉ルル天五志ヲ感シテ黄金千
兩ヲ玉フ是ヨリ南極ノ星ヲ見バク有りト云玉フ五万里在リ呪ヤ
就テ更ハハ馬車行ベカラストトヤス天五ウレ玉ヒ北天ニ歸ラントシ
玉フ云ク曰ク我ニ一ノ室ヲ命アリ名ヲハヤフサ年鶴ト云ク是子トシテ
一時ニ百万里ヲ行是ヲ借シ奉ラントトテ天五ヲノセ時ニ同ニ龍ニ玉
龍王候ヒ天五ヲムカエテ名老門ヲ見キ長生殿ニ移シ侍ラ令命ナリ
ケリ天五九ノ年ノ間ホミニフケリト云ク月ヲ命子由命リ後カラ
ズ八人ノ王子ヲマフケ玉フ斯テ天五ハ王子ト云ク天五ハ命リ巨丹
城郭ヲ捨ヘ天ニ還命ノ細をハリ地ニ墜石ヲ命キ地ヲ掃テ掃テ掃
テ掃テホラセ庭ニヒシラシツメ地ニ墜石ヲ命キ地ヲ掃テ掃テ掃テ掃
後テナヒカシ侍カケタリサレモ軍ニ負ケテ巨丹討レヌ部ヲ蘇民
救来ガ家ニ行玉フニ歳ハ富景ニテ長者トナレリ各ヲ清シテ三日
ニ夜蘇奉ルル天五巨丹が夜又命ヲ命ニ玉ワル天五我末代ニ行夜
神ト成リ蘇民人ヲ救殺スベシ蘇民救来ガ子孫ヲ命ク命ク
石ニ有ト誓約有ケリ巨丹ガ尸ハ埋ケリト時ノ軍兵ハ八万四

今ノ所若クモ表シケル六月十日。神多キリ蘇民が家ニテ三日
ニ夜ノ所掃テ儀式ノ系ノ御室ハハルカ後ノ事ヲ刻情和天皇
貞親上ノ事ニ降臨ヨリ勅請シケルト云クト云ク

壇庭ニ云 神宮社六月十日の夜来等ヲを原祭ト云ク

あこりり斗及天五ノ夜をま〜るを因リ神由國氏系
本仏家の有るるん中世ノ素尊皇焉に於令志テ藤氏系
の事ヲをのこす云六月十日ノ府下を始一列カヨク冷麵を嘗テ
時令食シ度是未定ノ如クシ未定ハ元ノ紀系を道ニヤ度室可
の云字ヤの時の始ト云 朝家ノカカ通ト稱セ〜る是純
源の命に〜して〜事實ハ六月十日ノ夜ノ遺凡ノ系源系向及
下鴨の御源地境に於ルル事ニ其を傳傳〜凡列
六月天五夜ナリト云ク是の事ニ六月十日

持社今ハ大宮在石井 在石井社正間也門内ニ平部社在石井
石橋在石井社在石井社在石井社在石井社在石井社在石井社
一宮在石井社在石井社在石井社在石井社在石井社在石井社

五岳成祠

(左)本社南一町「持殿多井」五岳成祠天之王持社
五岳(自)柏成(西)守の祠之と後藤の守り手記新祠
獲氏於来是之仔細利ハ後乃守りの略とも云り)

地主神

(後)平而今(左)本宮南門中西 持殿多井

後村上帯「南」於正平元子七月十日(後)志の若有りて協田
平五郎「紀」正平「社」武内宿禰を崇祀此類之の名に有りて
平五郎唱而平五郎「殿」ト云也

平五郎唱而平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也
平五郎「殿」ト云也

若宮

應永三拾一年八月十五日(平)良親王行列大河名を
薨志のい大御名殿と号次由於那「門」真云津嶋天王社内
乃若宮是之永立八子六月十五日(平)志の若社を建多丸

御茶大明神

御茶良王君ハ明應元年三月五日津嶋を遊去
御茶七十八陽象古殿と号ス曰之云三月五日天王社内社を

建而御茶大明神ト云也

八王子社持殿

稻荷社南向

塵宮日

辨才天社日

子子堂南向

屋根御茶南向

星文南向

昆沙堂南向

多度社南向

外文南向

内文南向

弘明御茶南向

大社南向

児御茶南向

獲氏社南向

矢御茶南向

米御茶南向

斐田文南向

王御茶南向

流御茶南向

當下御茶南向

地毒社南向

外文社南向

大虫社南向

一王子社南向

上御供不

下御供列

障樓 宝庫

遷宮後御殿

繪馬殿御殿

経堂

上御井 下御井

樓門御殿

橋守御社御殿

反橋

兜宿社御殿

大倉井

涙倉井

南御門

以外橋御の末社ト云ハ

時綱の撰集、津嶋躍記ト云書より委しひて家に
畧次 一葉 行町ノ際歩のり予ト云長石金を
懸沈次大の月ハ九の月の月ハ八日ト云性たの志
々ハ張の歩離子或ハ神ノ舞又ハ神示振を躍と云
舞人の如クハ帯に赤白の帯を指 清次より成り有ク
再掲せし事 肩を持たたのりものト云るを云々ト云神示ト云同書
と云ふ古雅ト云云々ト云を云々

「神示ト云云々の躍はつせし」云の志みも深き代
あり代ト云と限りちの志

「さの志ハ此の志もさなりして」云の志も深き代
代ト云あり代ト云と限りちの志

「何者乃云の志もさなりして」云の志も深き代
番ト云あり代ト云と限りちの志

「行町」 指佐町ニ境下ニ有町家 坂口ト云場

上切ハ糸の志ハ

一 津嶋牛頭天王祠 社傳 欽明天皇九年禰免

ト傳ノ不見日本記又牛頭天王名此時未有也

改曆雜事記 聖武帝天平五年 吉備大臣飯朝

於播磨逢牛頭天王 廣山率社記 及び率相記

の説同也 按續日本記三 吉備飯朝天平七乙

亥四月乙紀 未謂牛頭天王五年

津嶋社記 嵯峨帝再建ス

日本後記 類聚國史等無建牛頭天王祠ト云上

當時天下疫多然亦無祭牛頭天王院
清和帝貞觀十一年以津嶋天王 勸清山城國祇園社

云云 三代實錄無此說 二十二社任成及改曆難莫
祀奉相記 廣口奉古證文比皆以攝別飾磨那
廣多手改天五為京師祇園本祠下云

亦按自續日本記至後記諸國疫死多乞或賜醫藥
或八祈諸社或轉般若夏詳載之而無牛反
天王脩法之夏然牛反天五祠後世所建而依延長
風去記為素盞尊為尊我國疫牛石見祝詞
或云所謂八衢為牛八衢後神久那牛牛反
之神牛反天五云見佛經其後法在天刑星
儀軌原秋氏所撰之經傳教弘法之時未行
元正史實錄無其據見 凡國史無牛反天五
然中世以後不奉祀 東鑑見尾別津嶋社名

一祠官古無所見 或以為海部直中世身信儀若清者因為
外立於冰室氏代為社月次曰家七苗氏云

神主

海東郡市并其母郡東也村
渡古地天正十一年八月五日
信推彌兼下今云會所兼地
于外 死者先之

冰室於監

- 堀田大馬古史
- 河村牛古史
- 堀田善政古史
- 真光門古史
- 後部保八古史

神官

六位叙冠

計列之田中長吏ト云テ了今
家断後神役ホハ神之家
ト云

神樂丸

之仍司古吏兩人托ト又ト古吏ト云
也世改ト云トト来トトトトト
神役執仍

村至向苗田記又
平北世馬古吏
大矢部一古吏
林行司古吏後
村至仍司古吏總殿
氷室光古吏同古
後部乙若古吏古

堀田左一古吏古

宇部交在古吏貞

堀田開田古吏水

大矢部孫七古吏

後戸左原古吏初

堀田右吏字

堀田右系古

堀田權古吏古

堀田官古吏伴

堀田右古吏

神子度

提是也藤子別家部

右馬古吏ト云ト人

善及美ら家二人

門下美ら家

向美ら家二人

三弟美ら家

光吉美ら家

堀田三吉美内通
堀田平吉美

真地吉親左衛門

村吉八吉美藤
村吉吉美加茂

平地信親吉美奥

氷室信吉美

伊豆美ら家老渡波 大老親吉美

社僧

實相院
明星院
寶珠院
親善坊

巫女五人
諸藏八人

永祿二年四月津島信長の家
四郎七孝吉平光親系信長孫を
信長殿下になりしるをりて、
代りて平たるおとや吉しや

○堀田深右衛門正春、平吉二人をり死、之を慕ひ虎陽春昇
那に任也、平吉十津川會の役、軍切をりし人、之を
平吉、之を家守邦親王に仕へて、安高の家を相
續し、安高左衛門尉といふひ

元和八年八月廿五日 京吉田家官位尾張國幡角ノ掾守云

一尾州海部郡門真衣津嶋牛次天王ノ初皮堀田
對馬守為京家次許状を更ふ

同日八月廿五日

一同日初皮堀田守為原康久吉田家ノ許状を更ふ
元和九年十一月十日

一同日初皮堀田守為原弘長許状を更ふ
元和十年二月十日

一同日平池保馬守為原弘長許状を更ふ

同日

一同日初皮堀田守為原康継許状を更ふ
慶安二年二月十日

一神皇御座室右近守文紀長吉神代執事石原奉幣中
御法被下八ノ條お傳去ル二月十日 奉而右執事
守為原弘長

寛文六年七月廿九日

一日相宿坊田在駕古史紀之氏 坊田番古史紀之忠

直其地古史紀之氏可綱

辰部深美在康康英

辰部古史紀之氏康光

平地之古史紀之氏康致久

河村九多美在康康秀行

古七人伴在康康久

紗持衣光在康康宗庵

今御朱下り西也

神領之 子武百九拾之石立拜九合

津島村

寛文七年七月廿九日 教有之御朱下 欠享二年六月廿九日 御朱下

子之百九十九之石立

正保四年庚辰月廿九日 相宿美在之御朱下 子武百九拾之石

六中九合向宿の内言百廿七石立子八石相那 康康村惣地 向宿下下錫也 追言御朱下後御朱下也

御朱下 六月廿九日 宛名 向宿美在 乙子古史紀之氏

以の御朱下 宛名 向宿美在 乙子古史紀之氏 乙子古史紀之氏

提古配南別

言子百九十九之石立或味也合 天正社領

内

一言子之拾石合 氷室在進一石或百石合 津島入舟

一日九十石之年合 社領死苗 一高田拾石合 實北院門坊

一日四石之年合 社領死苗 一平之石 市江車領

一日八石之年 総料 一石拾石之年合 車領

一日五石之年合 坊田在駕美 一石五石之年合 津島

一日拾石之年合 役人合 一石五石之年合 御朱下

己

古事考紀下ト云々
一 津沼の家七名子の合能

一番 津沼 垣田 宮五郎 恒川 久茂 大指 清兼
考合 中村 久太郎 中村 勘助 飯沼 高平
人 救云子 卯おま

守山 大永 与 大石 根 井田 井 純 稻葉 源三 川 森 伴
右 少 村 之内 三子 又 百 早 三 名 子 丈 本 凡 津 沼 惣 八 外

二番 津沼 大 徳 長 兼 河 村 之 介 光 賀 彦 之 介
考合 曾 原 半 茂 森 深 彦 守 武 友 助 彦 守
人 救 云 子 七 百 卯 卯 丈 本 凡

平 沼 依 尾 高 木 上 左 右 良 町 屋 依 地 一 色 时 彦
大 山 寺 河 原 惣 助 右 土 少 村 之内 三 子 又 百 早 三 名 子 丈 本 凡

夫おん津沼城の外

之書

鎌倉

鎌田勘七郎

山中徳兵衛

中根敏中

平井石系

河村久徳

右一組後部手迄の先賢之良材宗之孫孫孫

流木之節所真地大苑園中孫七郎

右一組人数以子八百平云々

元永三年申

或古家六徳来を望字云々此先方元組合より推考云々
べし中世以来少く軍支の時組合より大所在の
告士と書に合世民の常仕加者を支に初め取来
書記せしむる

△津沼邑内寺院部

○後場の内より境内
に及にぬき少く除却

田原江島段田段寺坊蓮寺

紫雲山西福寺

本寺河沼院如来

塔頭珠河原

関山淨阿上人

道階林宗坊

漢寺

天照皇太后宮

持殿

○十五堂

○檀越寺

南山住持の一遍上人開基して菩提院と号し関山淨阿
上人曰別蓮寺名を南山と號し住持志修小僧有る者南山
大地を御自見地別と御堂と云々
年於燒くを堂より尖燒くを所より再興も其苦の至

瑞成垣田代ノ善提下ニテ異將 妻ノ如シ

尾張守紀之高御名

瑞成 善提下

之者ハ信長中津郡垣田村ニテ曾ト依正奉移在ハ海防郡
津守ニ建此社ヲ武内守相ニ立故面正奉 往石衛門院
叙從五位下 正月五日於
條殿合戦ニ放死ス

今市橋町古鏡ニテ
八四十五歩陸地

日本日記末

九品山蓮臺寺

本寺 阿保院勝日

同山 沼阿上人 瑞成

當古に信長信忠の判
形ハ外矢部平守未の
證文ナリト云

當古ハ永享七年十月良王君清信汝地ノ城ニ入陸時

供養ノ傍ニ建善堂ノ以向ト云ハお初有氏社ノ中ニ志
良王君ハ植ハ南江ニ来リ當古ニ建創志是ハ瑞成寺ノ
隠指在リタルト云 東ノ山堂ト云

淨土山院京光昭吉末

瑞成山瑞成寺

瑞成内寺致ニテ
口取方八歩陸地

本寺 新迦如来 大形

同山 月信上人 慶公大和寺

瑞成寺殿 正二位 西相 良王 大居士 外義

當古ハ大橋堂ノ善提下ノ中ニ信長ニ依正奉移在ハ海防郡
大橋氏ノ元祖ト云 瑞成寺殿 或ハ靈祿ニ王大光明
或ハ云大橋ハ布地ノ城ニ信長ニ依正奉移在ハ海防郡
信長ニ依正奉移在ハ海防郡 信長ニ依正奉移在ハ海防郡

尹良親之再世良田氏、政義の女と良王の永き七年
たりた九つは此へ入所して、後大徳家を譲り、ゆゑと云

日本書紀末

亀山大龍寺

○米の本町西へ入る龍寺
寺町寺及少少隆院
田畑五反三畝五斗

本寺河又た仏 慈差存依

開山 當寺 弘教僧長上人
中興 慈永二十一年八月廿五

大龍寺殿一品尹良親王の儀 靈牌あり

一品征夷大將軍尹良親王の信別大御所 慈差存依
小次郎板田右衛門の統統の爲に生害をり、此寺に龍王乃
以善徳を以て、後醍醐天皇の御孫の信別、頼朝、頼朝
並合を重んじ、有るに、其に討死の世良田、堀井等の

死尸の二塔の塚とあると、子一塚と号し、並合に立り、信忠、信雄
の判、おけ、外、奥、屏、文、寺、あり、友、乃、原、田、た、る、未、の、佛
快、も、あり

日本書紀末

来迎山宮家寺

○此の寺、ト云ふなり
境内寺及之殿、少少隆院

本寺河又た院 慈差存依

塔あり 西光院

開山 大徳寺 源悦大和尚

元和九年三月廿九日化

日本書紀末

寺號 相雲願寺

○寺町西へ入る龍寺
寺町寺及少少隆院

本寺あまた仏 (古年洛陽相雲寺
本寺ト日本書紀ト)

(表門ニ額あり)
相雲寺ト

開山不詳

此寺の開基は後傳未詳

一宗教統に存し寺再興も不可本寺は本山派の信僧
志願に由り後継に其後の告あり元の地一區一安を以て
と正安の況を以りする客毎の行りより家統を以ての寺を
と再建移し一區中を産地同如くして其の由り

降古漢の流名存此寺院末

○本寺の西寺

○金打院町に在り地月
寺及之風古堂跡也

本寺河原院

あら原院

○十五堂

開山大毎長源上人六和尙

也流不詳

日本石層河原院末

白鳳山弘淨寺

○中流町に在り古名
寺及之風古堂跡也

本寺三寺河原院

慈光大師依云傳記に
あら原院ト記あり

開山圓蓮社頓養上人一阿兼蓮六和尙

天正十八年庚寅十月十五日

茶師堂

慈光大師依

付あり申す中流原髪毛下蓮の系統文の江院如兼振お幅
て外春日武の彫刻仏像お多しなり中流原院流云々

源曹洞宗總本山慈持寺末

和尙

補院河原院末

慈光大師依云傳記に
源曹洞宗總本山慈持寺末

本寺の子子觀世音

塔院

開山太初繼是六和尙

應永大正己年九月

此の部河原院末
寺名事記あり

入雄妻の日記
寺名事記

溟守の秋葉社 尚山開基 此後方向不明

尚山氷室代々喜持別

同宗春日村の寺末

小尉子内入知寺代
六反八反九歩寺末

津波山正泉寺

塔頭 常福寺

本寺善教款迦如来 弘法所依

近古開基 弘法大師

後小栗院應永十三年正月七日化寛政三亥壬辰三百十

開山 大徹宗令 和尙太律師

好花屋泊永亨土未年三月廿二日卒(三百年)

二世 月桂立 乘大和尙

昔の軍制弘法大師左様、真之宗の尚字の開山大徹和尙

巡行の時尙と立寄り寺陽の事あり時の後持子頼恩に
寺とある政宗とありとあり 寺の開基は深淵院帝の
建長五年八月八日の尙寛政三亥壬辰百四十日卒
按て寺後三月廿二日開山大徹和尙遷化應永年中あり
若母のお遺り此の改元正徳下寺の形存傳る有り執
考に違ひたり

同宗日本興浄寺末 和尙

大安山延命寺

○寺陽町に在り
境致部及土取寺末

本寺阿保院 古伝中興正徳元年三月廿二日あり
寺号延九下の品是地為寺末なり

中興興浄世代天南和尙 此古軍基久ことあり

再中興大通和尙 天南八年(比岸) 法地の中興が平徳院

とありし大通和尙と申是れ法地と成 弘治二世(天南和尙
中興と有りと云は中興と有りと云は開山あり)

○小野又子ノ方ニアリ
地ノ部又ニ似テ安陸地

同宗本目一人有末

大珠山禪刹東

本尊 觀世音小像
石像

文安五戊辰年十月ニ化

同山 仙巖 能範 大和 尚禪師

日蓮宗致另処ニ至リ末 東

津嶋山妙延寺

○今昔場町ノ地
九段ノ御宗隆院ニ在リ

寛正又年丁子の申也

同基 另延山十代圓教院日意啓人

二世 弘成坊日業 ○能守親為文

古ノ山ニ在リ也日蓮宗ノ同答圓法祖師而改宗二世ト云

日蓮宗者能後本願寺末

妙栄山本蓮坊

○鼓屋町寺地
八段ノ六寺ノ地

應永二年ヨリニ化

同山 大橋寺 日榮啓人 在別本光寺
後所ニ在リ
建立ト云

東門内口本成行坊末

山原雲山正蓮坊

○布衣町寺
八段ノ地

本尊 阿彌陀

同山 正蓮坊

古ノ天台宗也 照養院ト云
文明ノ中 蓮如啓人ノ時 改宗
ノ時ノ付物も少ク殘リ
清剛ノ能宗者末ト云人
建立ト云傳ハ

○ 後醍醐天皇の境の畝及
寺殿土六歩備茶除院本寺

本寺 阿みだ

岡山

東門院京七条寺

普福寺 平

○ 小野子東入勢地
寺及也御守

本寺 阿弥陀

岡山

同寺日め末

本住寺

○ 下河野古地
寺歩備茶除院本寺

本寺 阿弥陀

岡山

同寺小大池村光徳寺末

淨光寺

○ 外雄妻古り境致
寺殿六歩備茶除院

本寺 阿みだ

岡山

同寺日め末

蓮慶寺

石小厨の山道古後之殿
十一上の佛名森院文ハ云

旧宗儀別院戸村積寺ハ
正樂寺

本寺阿保院

用山

旧宗寺条寺

成信坊

布中寺古地寺文之殿寺
佛名森院文有之

本寺阿保院

本寺長治丸中殿寺

金光寺

用山

南古宗基の始ハ本郡棘江ハ魯河新田ガ
中興易経申院の石橋ヲ本教寺門依通行の基ハ必
當寺に立寺リ路ハ大門口止路通リ踏石懸ク
石印之外ハ教ハ南津路ハ内ノ寺寺古地ハ
比降ハ古院文南坊古ハ佛来寺文

津路徳寺屋浦寺

武反寺	雲形寺	寺八下	海谷寺	寺反八下	成行坊
武反寺八下	空想云	四殿	照蓮坊	寺反	孫智坊
武反八下	真禪寺	七殿下	弘光寺	寺反八下	宝条寺
武反八下	本蓮寺	八殿下	明系寺	七殿下	正宗寺
武反八下	古常院	寺反殿	教行坊	九殿下	妙音寺

寺殿六下	惣持寺	五殿	普福坊	寺殿	地蔵寺
二殿	大慈寺	四反	石高院	二殿下	日光坊
寺及二殿	延命寺	或及二殿	普福寺	寺及二殿	正泉寺
二反八殿	西福寺	六殿	(寺) 普福寺	四殿下	淨念
寺殿六下	教念	二殿下	普三	(寺) 普福寺	淨念
寺殿六下	光澤庵	八殿	宗音	寺及六下	淨念
七殿六下	智正坊	七殿下	淨建寺	寺及六下	祐持

右ノ寺ノ名ハ此ノ如ク作ル間ニ正シク有ルモノト

十月七日

井 佐々木

河 又右判
井 新丸口

○下街及分合所
境内七回ノ寺ヲ除

寺田流 辨別一男田末 中老

大津山教信

本寺ニシテみだ

用山

○北口東入ル石境
云及八殿ニ去步除地

其云大徳寺ノ院末

寺尾山不動院

本寺ノ不動明王

用山政長上人

卒去子唐不志下ノ世万忌日
ノ一建立時代也 不詳

○小ツシ中地と云寺地
其及之願士等其除

日本大不動院末

吉祥坊 平

本寺不動院五

用山不詳

八飯文 烏井

八幡宮

持殿 烏井

社内蔵子 烏井

右不動院三

持社 ○白山文

○天満文

土主大炊金生居子

右園本末

三輿山親善坊

○白山三社

○外雄妻と云り流内也及一願九六下
其除徳名除上回及八飯六下と云
社内蔵子 烏井 七下 古納
本寺

用山

○境内古願之内其及家下
社内蔵子 烏井 七下 古納

社内蔵子 烏井

三輿山明法院 法下

本寺

用山

○街堂麻子より古地より
寺及一版十歩
社終日七石九斗二年八倉の

大日如来
三寶山寶珠院
法下

本号

開山

○境内志より古地より
領古の寺は合部天王社終日
早七石九斗二年為終日
川内並に神田寺及三版十歩除川内

大日如来
三寶山寶相院
法下

本山

開山

○後場の内寺内
寺及三版十歩除地

大日如来
淨河原
法下

本号

開山

○今市橋下より
寺地寺版十九歩
除地

大日如来
光淨寺
法下

本号

開山

○北口西入より古地より
寺地

源氏と云伝的寺
寶珠院

本号十一箇親者
開山

天照皇古御文化院所領
所領九二寺
御の親者云

○中修所より境内
三軒下

業師堂

法隆寺別根寺堂下

日光坊

○

日知山日知

大智坊

（下街及八尺右側奥御堂也）

本堂

閑山

尼寺

寶池山小僧坊

休蓮院下願堂り 棧門障樓こ 門入西堂本堂の築
山の形少ありて佳景也 朝立時暁七の中道集宿か入る者
右制礼有て 經天界かハ知者無而堂内ノ出入也

○下接中切西側

本堂 河みだ如来

阿比陀堂

山名石碑

元文元年奉り上り

阿比陀堂閑基會光建之

○白山言

地部取分除

陽象古取

一 出津傳の如きり波よききる屋敷三百歩宛以下数人位
配下 川口一人 生剛守一人 大綱方者一人 小後部人
右の如きお止てける事也

乙子半
依折村境内
秋分年貢地

本寺阿彌陀

閑山

乙子村境内
七取年貢地

本寺阿彌陀

閑山

秋竹村境内
五取年貢地

本寺

东门院本坊直末

随園寺

堤古宗玄坊上云直末改号

东门院本坊直末

泉正寺

今所云田字一男田直末云云
天保八年年东门院直末改號
深曹直末直末直末

深法山直心寺

閑山

水加

一 甚目寺 本堂類 鳳凰山 微達帝 震帝と云は堂の

造り形即 軒を以彼方力の六田を寄居け極の端に云は

多海分門半 落スに此岸の岸を自願と

○南門 二龍安室安執令別神 廟類 甚目寺 運教位

○南二五門 再興 梶原宗時寺行次と云北左江馬小田也

義時奉行位と標れ云りト云 梶ハ達久四五年ト云ト

○尚 甚目寺村 府下り行たり 邑入に 孫ありト云此寺
渠の方に清次の城大墓所 有る 大墓を借束借束而
常に用ゆ侍宗備常多り 古く侯地 吹瓦の付ける間
及びけ列通りの良及治 駕籠立テい桑冬元あやる
右孫ちの祖清次 傍に役人勅 若の也 右由張を 何と云も
預有る 中 甚目寺の事 何れ 宜言たらう 在駕籠の事
地末 止の事 下に 女 陰地 ことり 有る 何れ 此を
其及 尚 余 孫に 下 右 海 寺 令 侍 儀 如 此 為 指 事 也

之きに銜を降し、此地有るまゝは是の義何をぞ降すも
おまゝの義難義とてく、区との地と申すは、秋竹村を
此の地を右の原中を区と致意と云ふ、其の地は、改定して再
無し付有ると云ふは、是れ地を区と申すは、駕籠の区と
区人の地を村と申すは、この地は、除くを細り交り
てを執るゝおまゝ、是れを区と申すは、川原に有る、子三郎の太巻
を、一尺を、ふた、中流を、存す執るゝ

甚固寺

一 當古涅槃像 此典司、年廿四、年双の西像

明兆字、吉山、東福寺大燈圓作、丹子、少年、西を
好キ、仏像人物本朝、丹一、次、宋、李、龍、殿、を、まゝ、ひ
亦、元、毫、輝、を、まゝ、ひ、慈、承、の、比、勝、定、院、義、持、將、軍、に
冠、せ、る、東、福、寺、涅槃像、天井の輪、龍、宮、寺、人、知、然、
一 觀音代、喜月、古、邑、の、東、に、あり、き、比、の、地、に、
古、不、為、本、靈、古、後、子、不、依、亦、不、地、中、不、出、物、此、像、古、佛、古、仏、
なり

此加

一 獨祐山禱射寺 抄別有馬郡山田村にあり、此寺は

聖徳太子の冥妻寺、寺記に、太子蝦夷と、園ひひいし
時、禱、知、家、に、生、り、あ、故、寺、号、と、ま、し、と、ま、し、と、ま、し、と、ま、し、
地、氏、云、或、ハ、無、寺、地、中、流、ム
按、海、部、郡、日、置、云、其、村、井、邑、に、正、一、位、其、樂、主、
名、神、ト、云、社、リ、是、尾、浪、部、の、氏、社、ト、し、て、神、八、井、
命、を、祀、ま、り、抄、別、の、カ、ム、ラ、イ、ト、あ、り、く、ハ、是、ト、曰、家、
ヤ、古、傳、ハ、地、依、の、所、會、に、記、し、て、聖、徳、太、子、の、ま、ま、
と、子、蝦、夷、と、稱、ひ、る、正、祀、と、ん、く、依、

與中嶋郡國靈社ハ不同凡如伊勢王度會郡大國
玉社之例謂之則此社蓋海部直祀神乎
舊史記曰淡夜別命ハ大海部ノ祀云々

○從三位伊久波天神生類

按姓氏祿日的イナヒ長建內宿禰男葛城襲津彥命
之後之云々

類聚國史曰天長九年尾張國海部郡人山口守
目力自等云々 山口氏モ亦武內宿禰之裔也
當知海部郡同祖氏人多矣 後世紀之高佳
中嶋郡海田邑其男右衛門正泰始移居
海部郡津島是姓祀武內宿禰之祠者亦其故

○正四位大井天神武部

蘇傳云々大井邑明神祠蓋大井天字誤也

○正四位宗形天神

當郡風土記神社十三所是異延表或按而行世
本別風土記殘篇可疑者亦多矣蓋杜撰偽書也
民部省圖帳當郡載海川富園兩社藥川
神社正曆二年官幣了富園神社長保
三年造宮卜云々統在不祥其社地立所可惜
哉

△海東郡未劫之寺院ノ部

○丹波村

淨願寺外村長福寺

○宝徳山正念寺

寺月七段十歩

○葉外村

四り五七重

○下田村

○明春山地蔵寺

大日如来

○宇治村

○傳田村

○乘光寺

大日如来

○下切村

○牧中村

日不知

○頌政庵

○寺田村

上日如来

○長谷寺

日二段

大日如来

○光明寺

日五段

大日如来

○地蔵寺

日五段

大日如来

○明安寺

日五段

○申文村

法系念居院末

上六

○栖基山福寺

日四段十歩

○普光利田

○大井村

○普福寺

日六段十歩

○東海村

○々村

○親善寺

日五段

○沖宿村

日五段

○伏屋村

○雲龍山南院

日七段

○康伏名村

○長次郎村

日五段

○延命寺

日五段

○半太郎村

○光園坊

淨法庵下

○陽景寺

日五段

○雲徳寺

日五段

○文珠院

日五段

○慈雲寺

日五段

○白旗村

古八幡宮 平

光明寺

日之取 十六分 傳書

○二本木村

今天台本山不知 古八幡宮 平

福永寺

日之取 傳書

○金柳村

福曹桂村 傳書

日之取 山内 勝林寺

○川内村

福曹桂村 傳書

日之取

赤勤寺

○義永村

大日取末 年

東命山 長光寺

○川邊村

大日取末

延命山 玉泉寺

日之取 及七取十取 年

○板津村

大日取末 日

養安寺

○小室村

大日取末

寶長寺

○百町村

福曹津島 長光寺

日之取 神護山 徳成寺

○百治村

福曹津島 長光寺

日之取

教徳寺

○百町村

福曹津島 長光寺 日之取

神護山 徳成寺 ○今宿村

首領山 徳成寺

日之取 傳書

○日之取村

福曹津島 長光寺

日之取 日之取 正寺

○物家村

福曹津島 長光寺

心末寺

日之取 傳書

○日之取村

福曹津島 長光寺

是秀寺

新長村

慈徳院

日之取 傳書

○堤乞 西門徒 高田流佛堂

○今宿村

東五条

法因寺

○富塚村

西五条

富塚山 淨徳寺

日之取

日之取

○^二森村

東五系

預心寺

陸

○^二為余村

東五系、東三列傳長寺末

松葉山長福寺

佛

○^三上津村

大日

蓮忍寺

○^二大の利

東三列傳長寺末

廣光寺

○^二甚目村

大日

圓圓寺

○^二大地利

大日

廣光寺

○^三小間村

大日

玄庵坊

○^二本村

東三列傳長寺末

宗海寺

○^二中常村

東三列傳長寺末

正光寺

○^二砂子村

東五系

玉泉寺

○^二小吉村

東五系

行雲寺

○^二供田村

東三列傳長寺末

真如寺

○^二方場村

東三列傳長寺末

光圓寺

○^二江森村

東七村家系末

玄徳坊

○^二為森村

高洲市伝長寺末

蓮忍寺

○^二伏屋村

東三列傳長寺末

勝宗寺

○^二之村

東五系

宝蓮寺

○^二苗村

東五系

速念寺

○^二富永村

東五系

仰光寺

○^二前田村

東三列傳長寺末

圓城坊

福田村 東五里 浄慧寺 東 雲下村 東上川野幸末 系成寺 東

春田村 東之河野村幸末 浄業寺 備後 雲下村 東上川野幸末 正持坊 備後

戸田村 大日如来 宝永寺 備後 沖徳村 東下川野幸末 光寺 備後

大田村 大日如来 浄徳寺 備後 東隣村 大田一乃田末 秋中山光寺坊 中光

大田村 大日如来 西照寺 備後 藤田村 東之河野幸末 福業寺 備後

花山村 東五里 法光寺 東 小田村 東五里 福徳寺 東

花山村 東之河野幸末 圓光寺 備後 莪原村 東之河野幸末 系浄寺 備後

下田村 東五里 浄泉坊 備後 大坪村 東之河野幸末 正系寺 備後

赤尾村 大日如来 徳住寺 備後 秋竹村 東五里 南昌寺 備後

川邊村 東之河野幸末 吹雲寺 備後 伊波村 東下川野幸末 盛教寺 備後

○安志村

東五里

○安志村福智寺

日三町

東五里

○順正寺

日三町

東五里

○安志村

日三町

○安志村

日三町

○安志村

日三町

○心蓮寺

東五里

○安志村

日三町

○安志村

日三町

○安志村

日三町

○安志村

東五里

○安志村

日三町

○安志村

日三町

○安志村

日三町

○安志村

東五里

○安志村

日三町

○安志村

日三町

○安志村

日三町

○安志村

東五里

○古川村

東五里

○名念寺

日三町

備前

○福葉村

日三町

○福葉村

東五里

○福葉村

日三町

○福葉村

備前

○福葉村

日三町

○福葉村

東五里

○福葉村

日三町

○福葉村

備前

○福葉村

日三町

○福葉村

東五里

○福葉村

日三町

○福葉村

備前

○福葉村

日三町

○福葉村

東五里

○福葉村

日三町

○福葉村

備前

○福葉村

日三町

○福葉村

東五里

○三神村

東下宿徳吉末平

相入寺

○赤目村

東五系

瑞金寺

○内依倉村

東五系

信力寺

○百町村

大りり

皆隨寺

○宇治村

東下宿徳吉末平

正福寺

○新津村

大りり

念石寺

○中久村

東五系

福徳寺

○蛭岡村

東下宿徳吉末平

常福寺

○大木村

東五系

西蓮寺

○蛭岡村

大降寺

差懸寺

○大井村

東下宿徳吉末平

蓮徳寺

○廉伏岩村

東五系

光徳寺

○大井村

東五系

蓮徳寺

○南沖古村

東五系

相云坊

○白溪村

東下宿徳吉末平

蓮光寺

○根子村

東下宿徳吉末平

極楽院

○藤田村

東下宿徳吉末平

板中院

○青塚村

大りり

明王院

八幡宮 社 ○白山 寺 ○神の文 村 本村 村

八王子 村 小川村 村

白山宮 寺 常田村 村

神の文 村 飯沼 村

後回 寺

白山 寺 木村 村

八幡文 村 岩塚村 村

八坂宮 村 百場村 村

社

名井一表

日色 寺

名長

砂子村 寺

日

日

繪橋村 寺

日

沢村 村

日

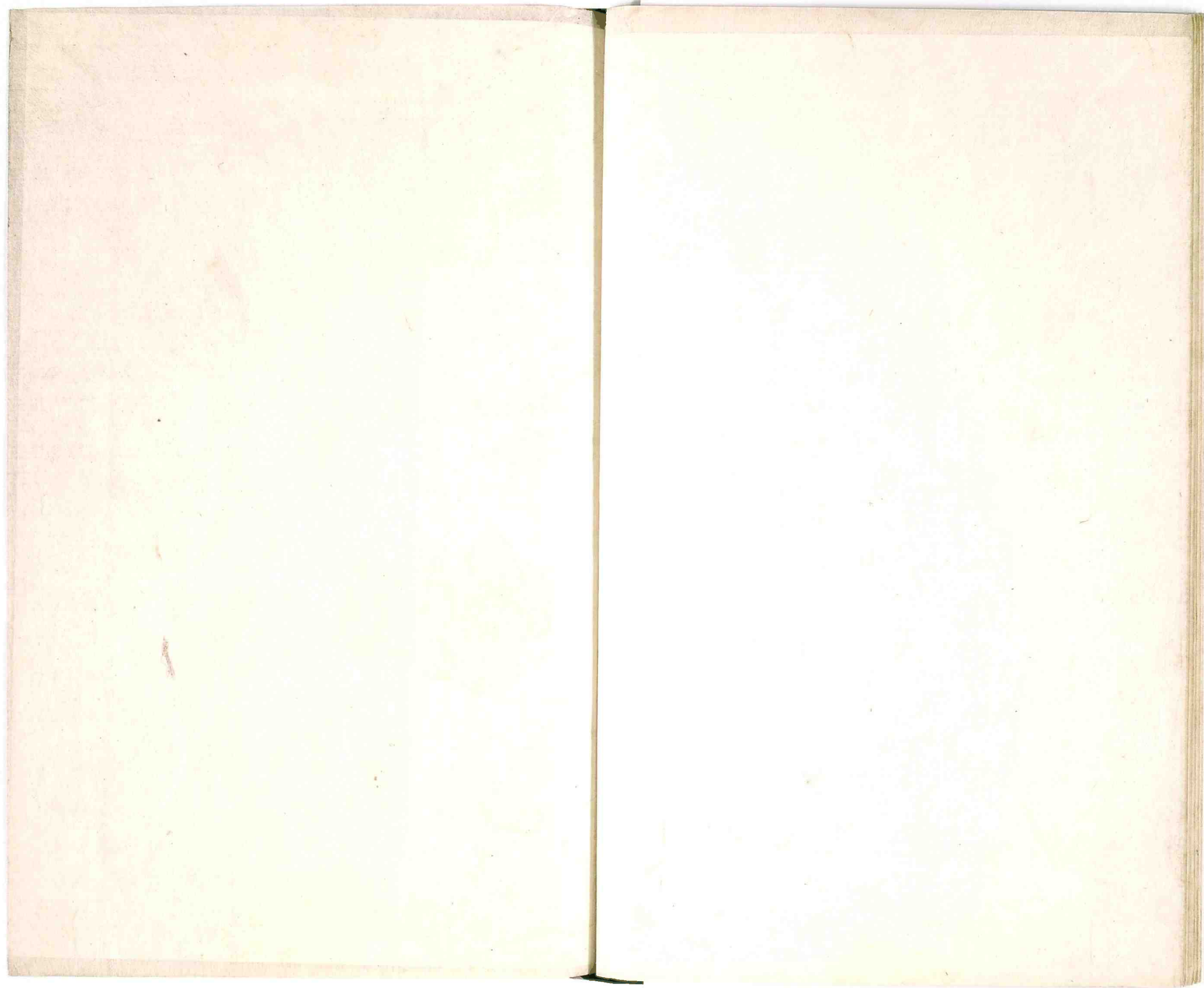
一表 ○八坂宮

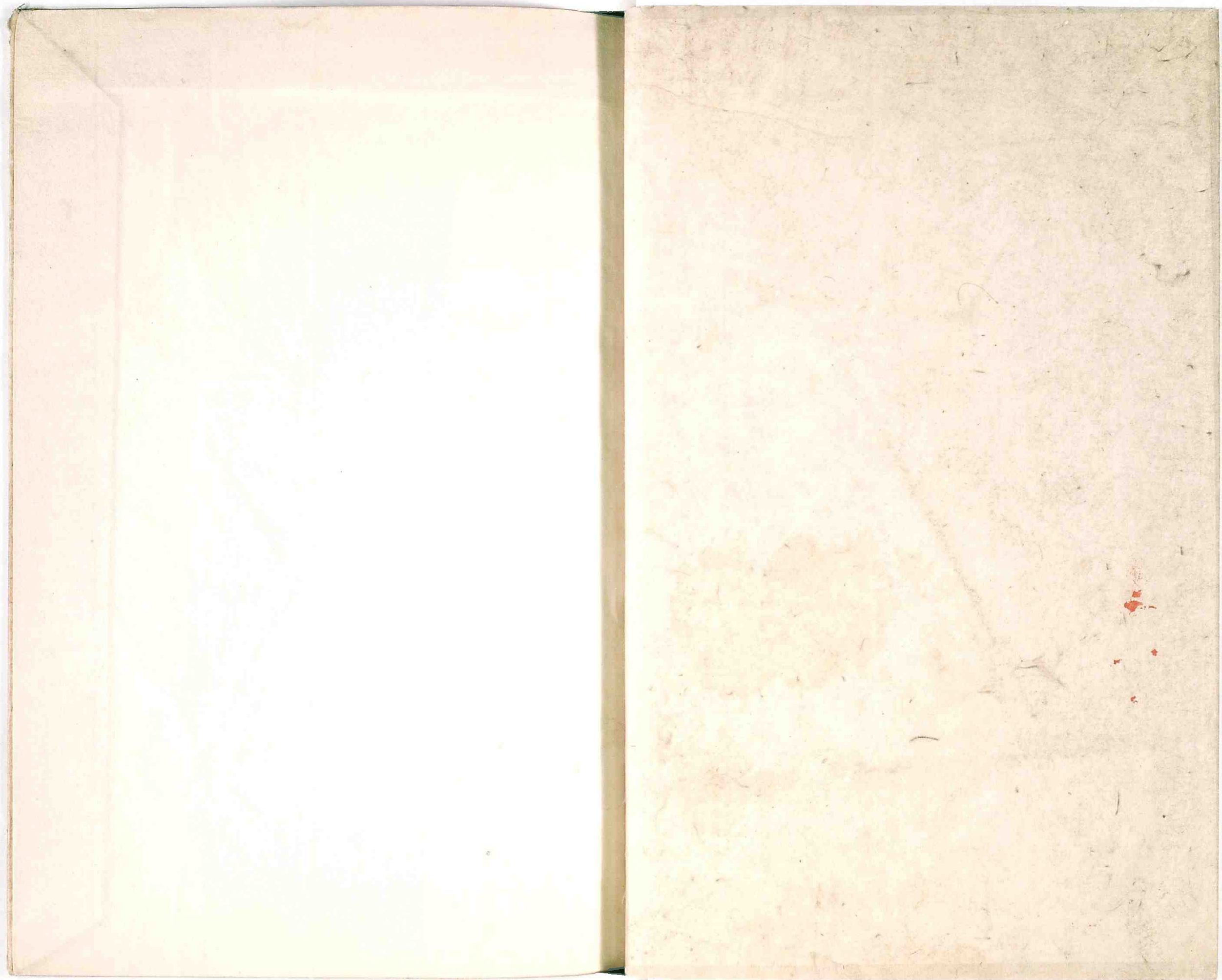
桂村

日

一表

下笠原村 寺





愛 知 県



1103269504